

言語学、はじめの一步 (25)

長くて短い夏休みも終わり、キャンパスは活気を取り戻しました。この夏は殊のほか暑い毎日でしたが、それでも足繁く図書館に通う姿が見受けられました。皆さんは、どの様に過ごされたでしょうか。では、メタファーの話の続きと参りましょう。

Q：これまで三つの概念メタファーのうち、「構造のメタファー」、「方向性のメタファー」についてお話しいただきました。

A：今回は三つ目の「存在のメタファー (ontological metaphor)」ですが、分かりやすい例として存在のメタファーの中でも特に「容器のメタファー (container metaphor)」と呼ばれるものを取り上げたいと思います。

Q：容器のメタファーとはどのようなメタファーですか。

A：前回もお話ししましたように、メタファーは人間の身体的経験が基盤となっています。私たちは自身の身体を明確な境界をもった存在物と見なしています。

Q：ここでの境界面とは皮膚のことですか。

A：そうです。皮膚を境にして、内と外という方向性、つまり自身の身体とそれ以外の外部世界という経験です。また自身の身体を容器とも見なしています。これは食べ物を取り入れたり、言葉を発したりといった経験が基盤となっています。

Q：身体が容器だとすると、食べ物や言葉は内容物ということですね。

A：そうですね。そしてこの容器と内容物の関係をやはり外部世界の物体にも投影します。「太郎が家から出てきた」と言う場合は、太郎は内容物で家は容器です。また「京都外大は右京区にある」と言えば京都外大が内容物で右京区が容器ということになります。

Q：「家」とは違って、「右京区」は壁や天井などの物理的な境界面はありませんか。

A：その場合でも、我々は心的に境界面を設定し、個別の存在物として捉えているわけです。さらに出来事や感情、考えといった境界面を持たない抽象的なものも実体のある存在物と見なしています。

Q：なるほど。では容器のメタファーというのは抽象的なものを容器と内容物に見なすメタファーということですね。

A：その通りです。Lakoff and Johnson (1980)

ではThe ship is coming into view. (その船が視界の中に入ってきた) などの例を挙げ、VISUAL FIELDS ARE CONTAINERS (視界は容器である) メタファーの存在を示しています。

Q：この例では自分が見ている“the ship”が内容物になるわけですね。

A：そうです。容器の中に取り込んだ内容物は、容器から外に出してしまうこともできますのでHe's out of sight now. (彼は今視界の外にいる (=もう彼の姿は見えない)) という表現も可能になります。またThere was a lot of good running in the race. (その競争の中にはよいランニングがたくさんあった (=その競争では素晴らしいランニングが数多く見られた)) では競争という出来事が容器としての物体で、ランニングという活動が内容物と見なされています。英語では容器と見なされる名詞句はin, into, out of, fromなどの前置詞句の目的語になる場合が多いですね。He's in love. (彼は恋愛中だ)、We're out of trouble now. (我々はトラブルから外に出ている (=トラブルはなくなった))、He fell into a depression. (彼は抑うつ状態に陥った) なども容器のメタファーの例です。

Q：分かりました。では参考文献をお願いします。

A：『日本語のメタファー』、鍋島弘治朗著、くろしお出版(2011年)です。身体性を基盤とした日本語のメタファーが数多く取り上げられています。

今回ご紹介いただいた参考文献は、書名の通り様々な日本語のメタファーを扱っています。馴染みのある日本語が対象ですが、専門的な研究書です。前半では認知言語学、認知メタファー理論、身体性メタファー理論について述べられ、後半では具体的なメタファーが解説されています。この後半には非常に多くの種類が挙げられていて、これほど沢山あるのかと驚きます。

本書は専門書ですので、ある程度知識を持った人におススメします。

請求記号：816.2 || Nab 資料ID：587921

配架場所：本館地下書庫

にゅうがく なおや

(福井工業大学准教授・英語学・英語史)

ふじい たつや (司書・課長補佐・アジア関係図書館)